

【教室等のP D C Aについて】

➤ 利用者の声の把握方法

「教室等にアンケート」を以下のとおり、実施すること。

- ・時期等：年間を通じて適宜、すべての教室等それぞれにおいて実施。
- ・対象者：「稲スポーツセンター」の実施する教室等の利用者（本人）。併せて、介助者に対して、別途、同じ内容のアンケートを実施。
- ・項目：以下のとおり。

■ ご回答者（あてはまるものに、○をして下さい。）

- ・ご本人 ・ご家族

■ ご本人の障がい種別は、何ですか（あてはまるものに、○をして下さい。）

- ・肢体不自由 ・視覚 ・聴覚、言語 ・知的 ・精神 ・発達 ・なし
- ・その他（自由記述：）

(1) この教室に、いつから参加していますか。あてはまるものに、○をしてください。

- ・1年以上前から ・ここ1年以内 ・今回がはじめて

(2) この教室に、どのぐらいの回数で、参加していますか。あてはまるものに、○をしてください。

- ・ほとんど毎回 ・2、3回に1回くらい ・ほとんど参加しない

(3) この教室に、これからも参加したいと思いますか。あてはまるものに、○をしてください。

- ・そう思う ・そう思わない ・わからない

(4) もっと回数を増やしてほしいスポーツの教室は、どれですか。あてはまるものに、○をしてください。

- ・ビームライフル ・卓球 ・フライングディスク ・ショートテニス
- ・バスケットボール ・エアロビクスダンス ・エンジョイダンス ・いきいき健康体操
- ・その他（自由記述：）

(5) もっと回数を増やしてほしい文化の教室は、どれですか。あてはまるものに、○をしてください。

- ・音楽 ・てづくりおやつ ・カレンダーづくり ・キーホルダー、プレスレット
- ・らくやき ・カード ・張り子づくり ・ラフターヨガ ・ジャンベ ・メイク
- ・インテリアガーデニング ・書き方 ・和太鼓
- ・その他（自由記述：）

➤ 教室等のP D C Aサイクル

以下により、教室等のP D C Aサイクルを確立すること。

- ①教室等に係るアンケートを、年間を通じて適宜、すべての教室等について実施。
- ②「①」の結果等が、次のいずれかに当てはまる場合は、再度、以下のアンケートを実施。

- ・「これからも参加したいと思う」と回答した人が、概ね半数未満のもの
 - ・アンケート回収率が概ね 50%未満のもの
 - ・定員に対する利用者の割合が、概ね 1.5 倍を超え、または、0.5 を下回る状態が概ね 1 年以上つづくもの
- ◀アンケートの内容（対象者：本人または家族） ▶
- (1) この教室にこれからも参加したいと思いますか。

・そう思う ・そう思わない ・わからない

(2) この教室にこれからも参加したいと思わない、または、わからない理由は何ですか。

■教室が楽しくないから ・そう思う ・そう思わない ・わからない

■講師がいやだから ・そう思う ・そう思わない ・わからない

■抽選等で毎回参加できないから ・そう思う ・そう思わない ・わからない

③「②」のアンケート結果をもとに、以下の対応を検討すること。

(1) 教室の内容や頻度に関する対応（特に、定員に対する利用者の割合が、概ね1.5倍を超え、または、0.5を下回るとき）

場所の変更、回数の増減、コースの新設または統合、内容の工夫 など

(2) 講師に関する対応

稲スポーツセンターにおいて実施する職員研修の受講、個別相談など

※なお、ビームライフル・卓球・フライングディスク等、長年にわたり好成績を収めているもの等は継続するよう配慮するなど、激変（急な廃止、新設等）は避ける。条例上の目的からも、教室のスポーツと文化の割合維持にも十分に留意する。

また、これらリピーターの多い教室については、新規利用者が利用しやすい環境確保に留意する（競技団体等との連携強化や入門コースの新設の検討等）。

④「③」の対応を行う際は、必要に応じて、障がい者スポーツや障がい者文化芸術の中核機関である「ファインプラザ大阪」や、「ビッグ・アイ」等の助言等を得ること。

【教室等の継続性確保や変更時の利用者対応】

➤ 教室等の変更時における利用者への対応

- ・「利用者説明会」を実施すること。

➤ 教室等の講師の交替時における利用者への対応

- ・講師が交代する「教室・プログラム」において、交代の2～3回前から、現・新の講師により同時対応（施設運営者の交代によるもの場合は、施設運営者の職員ではない外部講師について、現・新施設運営者間の引継ぎとして実施）すること。
- ・その際、「現」講師や「新」講師の対応が困難な場合は、「利用者説明会」により対応すること。
- ・併せて、頻繁に交代する講師と長期的に関わる講師が併存する手法の導入を検討すること。 など

➤ 「講師」の継続性の確保

- ・講師との書面による取交わしや、講師として登録する等の対応を行うこと。
- ・これら手続きを行う際、指定管理者の変更の際に、講師として継続するよう協力することを書面に明示するなどの対応を行うこと。
- ・指定管理者の交代そのものや、講師としての継続への協力を得られない場合については、現行の指定管理者による「利用者説明会」で対応すること。 など

【広域拠点性の確保】

➤ 地域活動支援の展開

- ・主に平日に稲スポーツセンターの職員や障がい者スポーツ指導員の派遣等の支援（とりわけスポーツに関して、「チームライフル」「卓球」「フライングディスク」等、稲スポーツセンターにおいて、重点的に展開している教室・プログラム）を実施すること。
- ・また、稲スポーツセンターにおいて重点的に展開している教室・プログラムの選手レベルの利用者が、これら支援におけるボランティア指導員として活躍できる手法の導入にも留意すること。

■ 府立障がい者交流促進センター（ファインプラザ大阪）における地域活動支援の状況（参考）

- ・地域等の障がい者スポーツ団体等の関係機関に対して、府障がい者スポーツ協会とも連携して、障がい者スポーツ指導員の派遣等の支援を展開。
- ・実績は、以下のとおり（北摂方面は、あまりカバーできていない状況）。

| 年度 | H29 | H28 | H27 | H26 | H25 | 合計 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 活動総数 | 126 | 121 | 107 | 69 | 61 | 484 |
| うち北摂 | 22 | 20 | 17 | 9 | 9 | 77 |
| (%) | 17.5% | 16.5% | 15.9% | 13.0% | 14.8% | 15.9% |

■ 北摂方面の府立支援学校等の分布状況等（参考）

- ・府立支援学校について：北摂方面には、高槻支援、豊中支援、吹田支援、摂津支援、茨木支援、箕面支援の各校あり。

➤ 稲スポーツセンターとファインプラザ大阪、ビッグ・アイとの連携

「利用者本位」の観点に十分に留意しつつ、下記の連携を実施すること。

- ・「[教室等のPDCAサイクル]」に基づく対応の検討や、教室・プログラムの運営に関し、ファインプラザ大阪、ビッグ・アイ等の助言等を得ること。

■ 稲スポーツセンターにおけるスポーツ・文化に係る取組みについて（参考）

| | | |
|--------|------------------|--|
| スポーツ関係 | 稲スポーツセンター杯卓球大会 | 稲スポーツセンターの利用者のみならず、ファインプラザ大阪の利用者などより幅広い知的障がい者の参加に向けて、連携。 |
| 文化関係 | 活動展・発表会 コンサート | 企画段階から必要に応じて、ビッグ・アイの相談支援機能を活用して、連携。また、活動展・発表会やコンサートのうち、一部の作品や出演者について、ビッグ・アイにおいて実施する作品発表等の場と連携。 |